

近木川干潟再生地の生物調査 (2021–2023 年度)

山田浩二¹・和田太一²・藤本龍之介¹

Biological survey of Kogigawa tidal flats restoration area (2021-2023)

Koji YAMADA¹・Taichi WADA²・Ryunosuke FUJIMOTO¹

Abstract: The qualitative biological surveys were conducted near the Kogigawa tidal flats restoration area in Kaizuka City, Osaka Prefecture from 2021 to 2023. The organisms identified in these surveys were 25 species from 15 families in the phylum Mollusca, 3 species from 3 families in the phylum Annelida, 38 species from 17 families in the phylum Arthropoda, and 13 species from 9 families in the phylum Chordata, for a total of 79 species.

Key words: Qualitative biological survey, tidal flats restoration area, Kogigawa

はじめに

2012 年 11 月に近木川河口に完成した近木川干潟再生地（汽水ワンド）の経過観察として、干潟の形成状況や生物相の把握についての定期的なモニタリング調査を 2018 年度までは大阪府からの委託を受けて実施し（山田ほか、2022）、2019 年度からは自然遊学館主体での調査を行ってきた（山田・和田、2024a）。今回は 2021 年度から 2023 年度の 3 ヶ年分の結果を報告する。

調査方法

2021 年 5 月 29 日、10 月 8 日、2022 年 2 月 4 日、5 月 4 日、2023 年 2 月 9 日、5 月 10 日、9 月 25 日、2024 年 2 月 11 日の計 8 回、干潟再生地内（図 1）を 2～3 人で踏査してタモ網や素手で底生生物の採捕を行った。また、このうち 2023 年 2 月 9 日、5 月 10 日、2024 年 2 月 11 日の 3 回の調査では投網を用いて魚類の採捕も合わせて行い（図 2）、確認した種を記録した。干潟再生地を取り囲む石積み護岸では石の隙間を探したほか、干潟では底にたまった軟泥をタモ網ですくい、泥をふるい落としてネットに残ったものから生物を見つけ出す方法を用いた。採捕した生きものは現地に再び放したが、一部は自然遊学館に持ち帰り種を同定した後、標本として保存した。また、目視で確認した生物についても記録種に含めた。主に底生生物を対象としたが、確認した魚類についても記録した。水温は水面下約 30 cm の箇所でアルコール棒状温度計を底の泥に突き刺して測定した。塩分濃度は ATAGO 社製のポケット塩分計 PAL-sio を用いて測定した。



図 1. 調査場所 2021 年 10 月 8 日

1 貝塚市立自然遊学館、2 NPO 法人南港ウェットランドグループ

結果および考察

本調査で確認された生物は軟体動物門 15 科 25 種、環形動物門 3 科 3 種、節足動物門 17 科 38 種、脊索動物門 9 科 13 種の計 79 種であった(表 1)。2012 年の調査開始以来、初めて確認された種はキバウミナ科のカワアイ(図 3)、カワザンショウガイ科のカハタレカワザンショウ(図 4)、ニッコウガイ科のユウシオガイ、メリタヨコエビ科のシミズメリタヨコエビ、コツブムシ科のハバヒロコツブムシ、テッポウエビ科のテッポウエビ、コイ科のギンブナの 7 種であった。

キバウミナ科のカワアイは 2021 年 5 月 29 日、2022 年 5 月 4 日に 1 個体ずつ潮間帯の泥地表面でみつかった(山田・和田、2024b)。環境省レッドリスト 2020 では絶滅危惧Ⅱ類と評価されている(環境省、2020)。近年、大阪府では 2017 年に男里川河口右岸、2020 年に岬町多奈川谷川古港の記録が報告されているものの(大古場、2020)、本種が生息できるような泥質干潟が少なく、生息基盤は脆弱であると考えられる。

カハタレカワザンショウは 2023 年 9 月 25 日に 1 個体が記録された。堤防の石積み下部が砂泥質干潟と接した場所で、半分以上埋もれた石をめくった際に下面を匍匐していた(和田、2025)。本種は 2023 年にカワザンショウ科の新属新種として記載され(Fukuda, 2023)、環境省レッドリスト 2020 では絶滅危惧Ⅱ類と評価されている。

ユウシオガイは 2024 年 2 月 11 日に干潟再生地では初めて記録されたが、海岸部の二色の浜では近年、比較的によく見られている種である。この日は近縁種のトガリユウシオとともに採集されたが、ユウシオガイは殻頂近くの輪肋が細かく規則的に並んでいるのに対し、トガリユウシオでは輪肋が粗く、鰭状になることで判別できる(図 5)。環境省レッドリスト 2020 では準絶滅危惧、大阪府レッドリスト 2014 では絶滅危惧Ⅱ類と評価されている。ユウシオガイとトガリユウシオが同所的に分布する場所ではユウシオガイの方が高い位置に分布が偏り、ユウシオガイは潮下帯ではほとんど見られないとされている(木村、2012)。また三重県の英虞湾奥部の泥質干潟の調査では



図 2. 調査の様子 2023 年 5 月 10 日



図 3. カワアイ



図 4. カハタレカワザンショウ



図 5. 左: ユウシオガイ、右: トガリユウシオ

トガリュウシオの生息が確認された 15 地点のうち、ユウシオガイが生息していたのはわずか 2 地点に過ぎなかったといい（木村、2007）、泥質干潟ではトガリュウシオが多く、ユウシオガイは少ないようである。本調査では潮間帯下部から潮下帯の泥をふるって生物を探す場合が多く、この調査方法ではトガリュウシオの方が見つかりやすいものと考えられる。



図 6. マツシマコメツブ

マツシマコメツブは大阪府レッドリスト 2014 で絶滅と評価された種であるが、2014 年に干潟再生地で生貝が見つかり（和田ほか、2015）、その後 2017 年度までは毎年継続して記録されていた（山田ほか、2022）。しかしその後は 2019 年 9 月 25 日（山田・和田、2024）と本報告の 2023 年 9 月 25 日（図 6）に記録があるのみで継続して生息確認ができなくなっており、干潟再生地内に定着できていないか、生息範囲が局所的もしくは縮小しているものと考えられる。2023 年 5 月 10 日には近木川河口に隣接する二色の浜のアマモ場の砂泥中からも採集されており（山田・和田、2025）、近木川河口周辺の浅海域にも生息していることが明らかとなった。

シミズメリタヨコエビおよびハバヒロコツブムシは 2023 年 5 月 10 日に採集されたが、本調査地より約 100m 海側の近木川河口で同年 4 月 8 日に行った調査においても確認されていた（和田・山田、2026）。テッポウエビは 2024 年 2 月 11 日に採集された。本種も本調査地より塩分濃度の高い二色の浜では採集されている種である（山田・和田、2025）。

3 年間で 8 回の調査を通じて 6 回以上記録された優占種は、軟体動物門でイシマキガイ、フトヘナタリ、ウミゴマツボ、クリイロカワザンショウ、クリイロカワザンショウ属の一種、マガキの 6 種、環形動物門でカワゴカイ属の一種、節足動物門でシロスジフジツボ、ニホンドロソコエビ、ヒゲツノメリタヨコエビ、ヒメハマトビムシ、フナムシ、スジエビモドキ、モクズガニ、ケフサイソガニ、アシハラガニ、クロベンケイガニ、ヤマトオサガニの 11 種、脊椎動物門でウロハゼの 1 種であった。種数は調査日により 20 台から 40 台にまたがるが、水温が 20℃未満となる冬期は 3 回ともすべて 20 台と出現種は少なかった。また、2023 年 9 月 25 日は 25 種と少ない結果となっているのは、投網を使った魚類の採捕を行っていないことも影響したと考えられる。

干潟再生地内の北東角部に 2015 年から自生してきたヨシ原は、年ごとに面積を拡げていったが、2020 年頃におおよそ落ち着き、以降、一定の規模になっている（図 7）。このヨシ原には多くの人工ゴミがトラップされて溜まる一方、ヨシ原を主に生息場とするフトヘナタリやクロベンケイガニなどはよく記録される優占種となっている。



図 7. ヨシ原の計測 2021 年 12 月 13 日

表 1. 2021 年度から 2023 年度にかけて近木川河口干潟再生地で確認された海岸動物リスト

「●」印は、2012 年度からの調査開始以来、初めての記録であることを示す。

門	綱	科	和 名	学 名	採集日	20210529	20211008	20220204	20220504	20230209	20230510	20230925	20240211	
					水温 塩分濃度	24.1℃ 0.7‰	28.8℃ 10.3‰	16.5℃ 18.2‰	27.5℃ 1.5‰	17.1℃ 2.7‰	24.0℃ 1.4‰	25.0℃ 2.5‰	15.7℃ 6.6‰	
軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ科	イシマキガイ	<i>Clithon retropictus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
		オニノゾノガイ科	コガツノブエ	<i>Cerithium coralium</i>						○	○			
		キバウミナナ科	フヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>			○	○	○	○	○	○		
			カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>		●			○					
		タマキビ科	マルウズラタマキビ	<i>Littoraria articulata</i>		○								
			タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>						○				
		ミズゴマツボ科	ウミゴマツボ	<i>Stenothyra edogawensis</i>			○	○	○	○		○	○	
		カワザンショウガイ科	クハロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
			クハロカワザンショウ属の一種(サツマ型)	<i>Angustassiminea</i> sp.		○	○		○	○	○	○	○	
			ヨシダカワザンショウ	<i>"Angustassiminea" yoshidayukioi</i>			○			○				
			カワザンショウガイ	<i>"Assiminea" japonica</i>				○	○	○				
			カハダレカワザンショウ	<i>Xenassiminea nana</i>								●		
		オリシレヨコバイ科	アラムシロ	<i>Hima festiva</i>						○				
		ヘコミツラウガイ科	マツシマコムツバ	<i>Retusa matusimana</i>								○		
	二枚貝綱	イガイ科	コロロエンカヅレ(バ)	<i>Xenostrobus securis</i>		○	○							
		イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>		○	○		○	○	○	○	○	
			オハワログガキ属の一種	<i>Saccostrea</i> sp.		○		○						
		フナガタガイ科	ウネナントマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>		○			○					
		シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>		○								
		ニッコウガイ科	トガリユウシオ	<i>Jitlada juvenilis</i>									○	
			ユウシオガイ	<i>Jitlada culter</i>									●	
		マルステレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>		○		○		○			○	
			ヒメカノアサリ	<i>Veremolpa micra</i>								○		
		オキナガイ科	ソノオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>						○				
環形動物門	多毛綱	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>									○	
			カワゴカイ属の一種	<i>Hediste</i> sp.		○	○	○	○	○	○			
		スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio japonica</i>									○	
		イトゴカイ科	イトゴカイ科の一種	<i>Capitellidae</i> gen. sp.						○				
節足動物門	蟹綱	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>		○	○	○	○		○	○	○	
			タネジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>					○		○	○	○	
			アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>		○								
			ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>				○						
	数甲綱	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>		○	○	○	○	○	○		○	
		メダコエビ科	シメズメダコエビ	<i>Melita shimizui</i>							●			
			ヒダツメメダコエビ	<i>Melita setiflagella</i>		○	○	○	○	○	○		○	
		ハマビシムシ科	ヒメハマビシムシ	<i>Platorchestia platensis</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
		コブムシ科	イコブムシ属の一種	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.							○			
			ハハヒコブムシ	<i>Chitonosphaeroma lata</i>							●			
		フナムシ科	フナムシ	<i>Ligia exotica</i>		○	○		○	○	○	○		
		タナイス科	キスイタナイス	<i>Sinelobus stanfordi</i>									○	
		クルマエビ科	ヨシエビ	<i>Metapenaeus ensis</i>			○	○		○	○	○		
			ウシエビ	<i>Penaeus monodon</i>			○							
		テナガエビ科	スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>		○	○		○	○	○	○	○	
			ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>					○					
			スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>					○					
			テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>		○				○	○			
		テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alopheus brevirostratus</i>									●	
		ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>									○	
		モクズガニ科	タイワンヒライノモドキ	<i>Ptychognathus ishii</i>		○	○		○		○			
			トゲアシヒライノモドキ	<i>Parapyxidognathus deianira</i>		○					○			
			モクスガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>			○	○	○	○	○		○	
			ケフサイノガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
			タカメフサイノガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>		○	○	○	○				○	
			アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>		○	○		○		○	○	○	
			ハマガニ	<i>Chasmagnathus convexus</i>			○			○	○	○		
	ペンケイガニ科	クロペンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		カクペンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>			○								
		アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>		○	○		○		○	○			
		フタババクガニ	<i>Parasesarma bidens</i>		○	○		○		○	○			
		スナガニ科	ハクセンシオマネキ	<i>Austruca lactea</i>		○	○		○		○	○		
			スナガニ	<i>Ocypode stimpsoni</i>								○		
			コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>		○							
		オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>		○	○	○	○	○	○	○		
			ヒメヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus banzai</i>			○					○		
			Macrophthalmus属	<i>Macrophthalmus</i> sp.						○			○	
	昆虫綱	トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>							○			
	脊索動物門	硬骨魚綱	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum</i>		○	○						
			ウナギ科	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>		○					○		
コイ科			コイ	<i>Cyprinus carpio</i>		○								
			ギンブナ	<i>Carassius</i> sp.							●			
ボラ科			ボラ	<i>Mugil cephalus</i>		○					○		○幼	
コチ科			マゴチ	<i>Platycephalus</i> sp.1					○					
スズキ科			スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>							○			
タイ科			キチヌ	<i>Acanthopagrus latus</i>						○幼	○		○幼	
ハゼ科			ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>		○	○	○	○	○	○			
			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>		○		○	○	○				
			ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>				○	○	○			○	
			ヒナハゼ	<i>Redigobius bikolanus</i>		○	○		○	○	○		○	
フグ科			クサフグ	<i>Takifugu niphobles</i>					○					
麗魚綱			スマガメ科	ミンシロビアカミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>		○			○	○			
計					38	34	23	37	28	43	25	27		

引用文献・参考文献

大古場 正 (2020) 大阪府で産出した注目すべき干潟の貝類 I. 自然遊学館だより, No.96 : 2-3.

大阪府 (2014) 「大阪府レッドリスト 2014」、48pp.

環境省 (2020) 環境省レッドリスト 2020. <https://www.env.go.jp/press/107905.html>.

木村昭一 (2007) 日本本土に分布するトガリユウシオガイ. ちりぼたん, 38 (1-2) : 1-2.

木村昭一 (2012) ユウシオガイ. In 日本ベントス学会編, 干潟の絶滅危惧動物図鑑海岸 ベントスのレッドデータブック. 126. 東海大学出版会, 秦野.

Fukuda, H. (2023) A new genus and species of the Assimineidae (Caenogastropoda: Truncatelloidea) from temperate mainland Japan. Molluscan Research, DOI: 10.1080/13235818.2023.2278070

山田浩二・岩崎 拓・児嶋 格・松岡 悠・和田太一 (2022) 近木川干潟再生地の経過観察 (2018 年度). 貝塚の自然 第 22 号 : 1-35.

山田浩二・和田太一 (2024a) 近木川干潟再生地のベントス調査 (2019-2020 年度). 貝塚の自然 第 23 号 : 7-9.

山田浩二・和田太一 (2024b) 近木川干潟再生地で記録されたカワアイ. 貝塚の自然 第 23 号 : 10-11.

山田浩二・和田太一 (2025) 二色の浜のアマモ場の生物調査 (2021-2023 年). 貝塚の自然 第 24 号 : 18-23.

和田太一 (2025) 貝塚市近木川干潟再生地および岬町落合川で見つかった希少貝類 3 種. 貝塚の自然 第 24 号 : 1-6.

和田太一・山田浩二・濱谷 巖 (2015) 近木川河口干潟再生地で見つかった頭楯類 3 種. 自然遊学館だより No. 74 : 1-3.

和田太一・山田浩二 (2026) 近木川河口のヨコエビ類調査. 貝塚の自然 第 25 号 : 1-6.